

ふりがな 氏名	やまもと しゅん 山本 駿	職名	助教
取得学位	修士(看護学)	学会での受賞歴	なし
主な担当科目	小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、看護学研究ゼミナール、看護の統合と実践実習		
所属学会	日本看護研究学会、日本新生児看護学会、日本ヒューマンヘルスケア学会 日本看護学教育学会、日本小児看護学会		

◆ 教育業績

事項	実施 年月(日)	概要
教育担当者(名古屋市立大学病院)	平成30年4月～平成30年3月	新人看護職員研修計画に沿って、部署における新人看護職員研修、部署内 OJT プログラムを立案し、実施・評価を行った。
臨地実習指導者(名古屋市立大学病院)	令和元年6月	看護学生に対し、日常行われている看護を研究的視点で探求することができるように、病棟の特徴や臨床現場からの視点を加えながら指導した。
基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	令和2年4月～令和2年12月	看護学生が看護技術の手順や注意点を理解できるように、科目責任者・単元担当者の指導の下、教員による看護技術の手順について動画撮影及び動画編集を行った(基礎看護技術演習Ⅱ「滅菌手袋の装着」、基礎看護技術演習Ⅲ「静脈血採血」)。編集した動画はナーシングスキルに公開し、学生の自己学習に活用できるようにした。
基礎看護学実習Ⅱ	令和3年2月～令和3年3月	看護学生がこれまでに学習した知識・技術・態度を対象者に適応させることで、対象者の特徴を理解し、個別性のある看護を実践するための基礎的能力を養えるように、コミュニケーションによる情報収集の方法や看護技術、看護過程の展開方法等を指導した。
基礎看護技術演習Ⅲ	令和3年4月～令和3年7月	学生が看護技術の手順や注意点を理解できるように、科目責任者・単元担当者の指導の下、教員による看護技術の手順について技術指導を行った。「呼吸・循環を整える技術」の単元担当をし、講義中は要点が記載できるよう授業資料を作成し配布し、演習は、酸素ポンベの取り扱いとモデル人形を用いて口鼻腔吸引が実施できるように計画を立案した。
看護過程	令和3年5月～7月	学生5名を担当し、紙上事例に示された模擬患者の看護過程の展開(情報収集～計画立案)が行えるように指導を行った。
基礎ゼミナール	令和3年9月～令和4年1月	健康栄養学科、看護学科1年の9名の学生に対して、文献検索方法や発表資料の作成方法を指導した。テーマを学生が選定し、学生が主体的に計画、実行し、成果発表が行えるように指導を行った。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
基礎看護技術演習Ⅱ	令和3年9月～令和4年1月	学生が看護技術の手順や注意点を理解できるように、科目責任者・単元担当者の指導の下、教員による看護技術の手順について技術指導を行った。「死後のケア」の単元担当をし、講義中に要点が記載できるよう授業資料を作成し配布した。
基礎看護学実習Ⅱ	令和4年2月～令和4年3月	学生10名を担当し、これまでに学習した知識・技術・態度を対象者に適応させ、対象者の特徴を理解し、個別性のある看護を実践するための基礎的能力を養えるように、コミュニケーションによる情報収集の方法や看護技術、看護過程の展開方法等を指導した。
基礎看護学実習Ⅰ	令和4年8月	学生8名を担当し、臨地実地指導者と連携を取りながら病院に勤務する看護師の役割と機能について理解できるように指導を行った。
基礎看護技術演習Ⅱ	令和4年9月～令和5年1月	「死後のケア」の単元担当をし、講義中に要点が記載できるよう授業資料を作成し配布した。
基礎看護技術演習Ⅲ	令和4年4月～令和4年7月	「呼吸・循環を整える技術」の単元担当をし、講義中は要点が記載できるよう授業資料を作成し、配布した。演習は、モデル人形を用いた口鼻腔内吸引が実施できるように計画を立案し実施した。
看護過程	令和4年5月～7月	学生7名を担当し、紙上事例に示された模擬患者の看護過程の展開(情報収集～計画立案)が行えるようにグループワークを取り入れながら指導を行った。
基礎看護学実習Ⅱ	令和5年2月～令和5年3月	実習先病院との連絡調整を行った。学生10名を担当し、看護技術、看護過程の展開方法等、臨地実習指導を行った。実習開始前には大学内で看護技術の練習ができるようにスケジュールを作成し、学生に技術指導を行った。
看護学研究ゼミナール	令和4年4月～令和4年11月	学生1名を担当し、文献の検索方法、研究計画書の作成、論文の作成方法等、文献研究の進め方について指導した。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備 考
論 文	男性看護師から語られた労働意欲を向上・減退させた経験(原著論文)	共	平成30年7月	日本ヒューマンヘルスケア学会誌3巻2号	山本 駿, 三吉 友美子, 岡島 規子 Page47-58

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論 文	新生児医療機関の災害時におけるスコアを用いたトリアージの開発と妥当性の検討(研究報告)	共	令和3年 5月	日本新生児看護学会誌 27巻	山本 駿, 柄澤裕子, 西尾貴子 Page43-49
	看護過程の展開と連動した模擬患者を用いたシミュレーション演習「小児のバイタルサイン測定」における看護学生の学び	共	令和4年 11月	日本看護学教育学会誌 32巻2号	大橋 麗子, 宮野 幸子, 山本 駿, 杉浦 太一
学会発表	A 病院における新トリアージシステムの構築と妥当性の検討(口頭発表)	共	令和元年 11月	第29回日本新生児看護 学 会 (SHIROYAMA HOTEL Kagoshima)	山本 駿, 内山 裕子, 西尾 貴 子 日本新生児看護学会講演集 29 回 Page115
	看護過程の展開と連動したシミュレーション演習「小児のバイタルサイン測定」における学生の実施内容の特徴	共	令和4年 7月	日本小児看護学会第32 回学術集会(福岡国際会 議場)	山本 駿, 大橋 麗子, 宮野 幸 子, 杉浦 太一